

# 平成30年度全国学力・学習状況調査結果のポイント(小学校)

## 国語

|         | 国語A | 国語B |
|---------|-----|-----|
| 大分県(公立) | 72  | 56  |
| 全国(公立)  | 71  | 55  |

※平均正答率

### 結果概況

- ・国語A・Bともに、正答率が全国平均以上の児童は42.3%で昨年度(39.8%)よりも増加。

### 課題が見られた問題と学習指導のポイント

【課題】目的に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。(B2二:大分県14.2%・全国13.5%)

- 推薦文では、目的に応じて推薦する対象のよさを捉え、その理由を明確にして書くことが求められる。目的に応じた言語能力を身に付けさせるためには、多様な図書資料等を活用する言語活動を行うことが必要である。また、考えを深めたり広げたりするためにも情報を比較したり、関連付けたりして考える指導をすることも必要である。



◆平成30年度全国学力・学習状況調査授業アイデア例(小学校国語)より

## 算数

|         | 算数A | 算数B |
|---------|-----|-----|
| 大分県(公立) | 65  | 52  |
| 全国(公立)  | 64  | 52  |

※平均正答率

### 結果概況

- ・算数A・Bともに、無回答率が全国平均を下回る。
- ・領域「量と測定」の正答率が、全国平均を0.1ポイント下回る。

### 課題が見られた問題と学習指導のポイント

【課題】横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く。(B5:大分県42.7%・全国43.2%)

- 指導に当たっては、折り紙が100枚で足りる理由を、筋道を立てて考え、根拠を明確にして説明する活動を行い、児童が用いた数の意味や式の意味、答えの意味など、根拠を明確にしながら説明することができるようにすることが大切である。

### 説明の基本形(例)

- ①考え方(根拠)を示し方針をはっきりさせる。
- ②取り出した情報を整理し、計算等を行う。
- ③答えにつながる計算や説明を行う。
- ④答え(結論)を導き出す。

※①～④に基づいた説明ができるように、発達段階に応じて指導を行うことが大切。  
※児童がお互いに、説明を指摘し合ったり、修正したりする活動を充実させることが大切。

◆『説明の基本形』大分県教育委員会HPより

## 理科

|         | 理科 | 大分県          | 全国    |
|---------|----|--------------|-------|
| 大分県(公立) | 63 | 理科が好き 81.7%  | 83.5% |
| 全国(公立)  | 60 | 理科が分かる 89.0% | 89.4% |

※平均正答率

### 結果概況

- ・「理科が好き・分かる」と回答した児童は、全国平均よりも少し低い。
- ・「自然事象についての知識・理解」は、全国平均を7.2ポイント上回る。

### 課題が見られた問題と学習指導のポイント

【課題】一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。(2(3):大分県19.9%・全国20.1%)

- ①【めあて】理科の見方・考え方を働かせて、活動のゴールとその過程を示す。
- ②自然の現象を、量的な関係や時間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりして探究する方法を用いる。
- ③大雨が降って流れる水の量が増える自然現象を、単位時間に流れる水の量で捉えて、水の量を変化させた場合の、実験結果を比較する。

# 平成30年度全国学力・学習状況調査結果のポイント(中学校)

## 国語

|         | 国語A | 国語B |
|---------|-----|-----|
| 大分県(公立) | 77  | 62  |
| 全国(公立)  | 76  | 61  |

※平均正答率

### 結果概況

- ・国語Aでは、全ての領域において正答率が全国平均を上回った。
- ・国語Bでは、領域「話すこと・聞くこと」の正答率が、全国平均を0.3ポイント下回った。

### 課題が見られた問題と学習指導のポイント

【課題】文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。(A8四二:大分県20.1%・全国22.3%)

→ 文の中における主語を捉えたり、主語を明示しながら適切に表現したりすることに課題があると考えられる。文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に伝わるようになってきているかを常に吟味するように指導することが大切である。

**授業アイデア例**

学習の流れ

1. 推敲する際に注意する点を確認する。
2. 文の組立てについて注意する場合
  - 主語と述語との関係
  - 文末表現(常体と敬体、副詞の呼応など)
  - 並立の言葉の使い方(「Aしたり、Bしたり」など)
  - 一文の長さ(読点の付け方、「の」の多用、逆接表現の多用など)
  - 修飾と被修飾との関係
  - 助詞の使い方
  - 同じ意味の言葉の重複
3. 具体的な文の中で、どのように直せばよいのかを考える。

【質問】この文はどのように直せばよいでしょうか?

忘れ物をした原因は、かばんの中身をよく確かめなかったことです。

忘れ物をした原因は、かばんの中身をよく確かめなかったからです。

忘れ物をした原因は、かばんの中身をよく確かめなかったが故です。

これならいいね。

【留意点】

- 推敲する学習場面では、文と文、段落と段落のつながりなど文章の組立てに目を向けさせることも効果的である。

◆平成21年度全国学力・学習状況調査授業アイデア例(中学校国語)より

## 数学

|         | 数学A | 数学B |
|---------|-----|-----|
| 大分県(公立) | 66  | 45  |
| 全国(公立)  | 66  | 47  |

※平均正答率

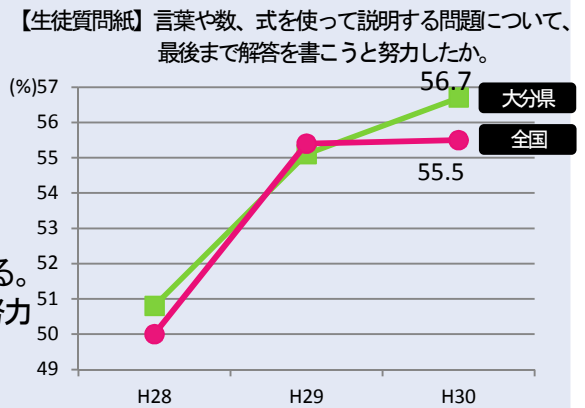
### 結果概況

- ・数学Bでは、領域「関数」以外の正答率が、全国平均を下回る。
- ・「説明する問題」に対して、最後まで解答を書こうと努力する生徒は増加している。

### 課題が見られた問題と学習指導のポイント

【課題】通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する。(B5:大分県9.3%・全国10.4%)

→ 日常的な事象の考察において、表・式・グラフなどから得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができるように指導することが大切である。ある事柄が成り立つことを説明する際には、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、数学的な表現を用いて簡潔にわかりやすく説明することができるように指導することが大切である。



## 理科

|         | 理科 | 大分県   | 全国    |
|---------|----|-------|-------|
| 大分県(公立) | 67 | 66.9% | 62.9% |
| 全国(公立)  | 66 | 68.8% | 70.0% |

※平均正答率

### 結果概況

- ・「理科が好き」と回答した生徒は、全国平均を上回る。一方で、「理科が分かる」と回答した生徒は、全国平均を下回る。

### 課題が見られた問題と学習指導のポイント

【課題】1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる。(2(4):大分県56.8%・全国61.3%)

- 「変える条件」に伴って変化する「変わってしまう条件」を指摘できるようにする。
- ・科学的に探究する能力の基礎や態度を育成する上で、自然の事物・現象の中から要因を抽出し、適切に条件を制御して観察・実験を計画する。
- ① 「変化すること(従属変数)」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、それらの妥当性を検討。
  - ② それらの要因を「変える条件(独立変数)」と「変えない条件」に整理し、実験を計画する学習場面を設定。
  - ③ 「変化すること(従属変数)」以外に「変える条件(独立変数)」に伴って「変わってしまう条件」について検討。